

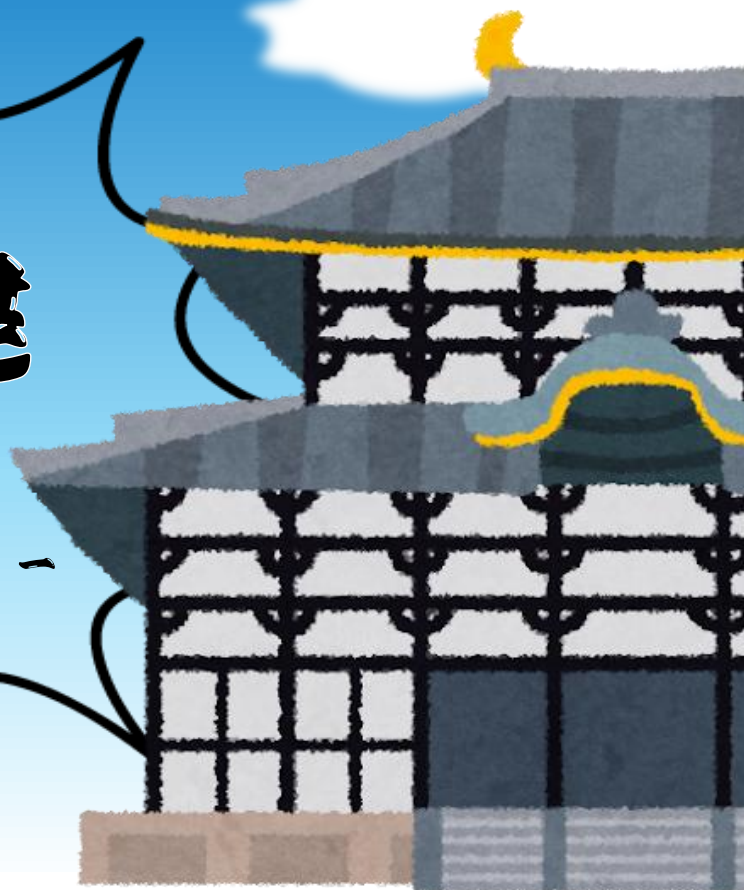
申込不要
参加無料

第11回 徳地歴史講座

東大寺再建

(鎌倉時代)

ー徳地が歴史の表舞台に！ー



日時

令和8年

8月30日(日) 10時～12時

講師

徳地史談会 吉松 桂二氏

会場

山口市立徳地図書館 視聴覚室

東大寺は奈良時代に聖武天皇が、国家・国民の平和と安全を仏教の力で守ってもらうために建てたお寺で、全国60余の国分寺の総本山(総国分寺)でもありました。

そのお寺が、治承4年(1180年)に平家の南都焼討により焼失するので、そのことを国家存亡の危機と感じた当時の支配層は、源平の内乱の最中にも拘わらず、いち早く再建に乗り出します。後白河法皇により造東大寺大勧進職に抜擢された重源は、焼失後わずか5年で大仏開眼を実現させ、文治2年(1186年)の4月には、大仏殿再建の用材を求めて徳地にやってきます。

東大寺再建は、天下・国家の復興を目指す一大国家的社会再生事業です。重源は、徳地の材木を、歴史の表舞台に登場させ、この大事業に果敢に取り掛かります。

「東大寺造立供養記」(以後「供養記」と書く)は、その様子を克明に記しています。徳地の材木は、どのように伐採されたのか、どのようにはるか500km先の奈良まで運ばれたのか、私たちは「供養記」を読み解くことで、そこに壮大な歴史スペクタクルがあったことを知り、感動を覚えるのではないのでしょうか。

問い合わせ

山口市立徳地図書館

山口市徳地堀1527-3 Tel:0835-52-0043

